

加齢による運転能力の変化に注意



認知機能検査

下の検査をやってみましょう。この検査は75歳以上の人が車の免許を更新する場合に事前に受ける、認知機能検査の一例です。

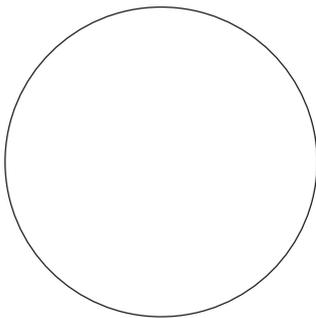
例題① 時間の見当識

以下の質問に答えてください。

質問	回答
今年は何年ですか？	年
今月は何月ですか？	月
今日は何日ですか？	日
今日は何曜日ですか？	曜日
今は何時何分ですか？	時 分

例題② 時計描画

時計の文字盤を描いてください。下の円の中に数字を全部書き込み、3時35分になるように時計の針を描いてください。



〈出典〉警視庁ホームページ「認知機能検査について」を参考で作成。



70歳以上のドライバーは、免許の更新時に高齢者講習を受講することが義務付けられています。

教習所などで行われる高齢者講習では、講義や実際に車を運転してもらい、安全運転の指導が行われています。

こんな運転は危険です

人は年を重ねるに連れて、視力や反射神経が低下していきま
す。認知機能の低下から判断力
が低下することもあります。多
くの高齢者は自分の体の衰えに
気付き、注意しながら運転して
いますが、軽微な交通違反から
事故につながってしまう場合が
あります。

運転に集中すると、信号や標
識に意識がいかず見落としてし
まうことや、見えていても認識
できていないことがあります。
駐車場では車を停めることに意
識が集中してしまい、周囲の障
害物や歩行者に目が届かないこ

ともあるようです。

長年の運転による慣れが、危
険な事故につながる場合もあり
ます。講習の実車指導では、一
時停止が曖昧な高齢者が多く、
自己流の交通ルールができてし
まっている人も多く見られます。
また急いで運転していたり、
周囲から急かされたりすると気
持ちが焦り、交差点での左右確
認などがおろそかになって、運
転操作を誤ることもあるよう
です。

走り慣れた道だから大丈夫だ
ろうと運転するのではなく、危
険かもしれないと常に注意深く
運転をすることが、事故防止に
つながります。

免許更新と返納制度

70歳以上のドライバーは免許更新の6か月前から、教習所などで高齢者講習を受けることが義務付けられています。高齢者講習はドライバーの身体機能の変化や、今の自分の状態を客観的に知るための講習です。

70歳から74歳のドライバーの免許更新

70歳以上のドライバーが運転免許証を更新するときは、座学や実車講習などを行う高齢者講習を、教習所などで受講する必要があります。

75歳以上の人の免許更新

70歳以上が受講する高齢者講習のほか、認知機能検査を行い、その結果に応じた実車指導や個別指導を受講します。

認知機能検査の結果によっては医師の診断が必要になり、認知症と診断されると免許の更新ができなくなります。

この検査は高齢ドライバーが自分の認知機能の状況を理解し、その後の安全運転に生かしてもらうためのものです。

運転に不安を感じたら

運転免許センターなどでは、運転適性相談窓口を開設しています。今までのように運転できなくなったり、家族の運転に不安を感じるようになったりしたら相談しましょう。

運転経歴証明書

運転経歴証明書は、過去の運転経歴を証明するものです。免許を更新しなかった場合や自主返納した場合に、警察署などに申請することで受け取ることができます。発行後の住所変更にも対応し、身分証明書として生涯使うことができます。

公共交通機関などで運転経歴証明書を提示すると、利用料金の割引を受けられる場合があります。

あなたの生活どうですか

免許を返納した人 公共交通などを使って上手に生活



吉村功さん
(77歳・倉橋)

75歳で免許を返納しました。車を運転できないと、生活するには不便ですが仕方がないですね。用事があるときは、自転車や徒歩で出掛けているので、足腰が丈夫になりました。運転経歴証明書を持っているので、タクシー料金が1割減で利用でき助かっています。高齢の人は、自分の運転を過信しないで気を付けてください。

運転を確認して続ける安全運転 高齢者講習を受講した人



宮應重俊さん
(81歳・鍋木)

車はほぼ毎日運転しています。スピードを抑え、対向車に注意しながら運転しています。また家族と一緒に乗ってもらい安全を確認してもらったり、夜間の運転は控えたりしています。高齢者講習を受けるのは3回目です。実車講習では自分の運転を再確認することができました。これからも自信を持って運転できると感じました。

インタビュー



高齢者が安全に運転するためのポイント



東洋自動車教習所 永井統教官

交差点や見通しの悪い場所での左右確認は、意識して行いましょう。目だけを動かして確認するのではなく、顔をしっかりと確認したい方向に向けることが大切です。見たつもりが一番危険です。

道路の環境に合わせて車のスピードを調整することも大切です。狭い道路などでは、スピードを抑えることで、対向車との接触や歩行者の飛び出しによる事故、標識や信号の見落としを防ぐことができます。

一方、幹線道路などの広い道路では必要以上にスピードを落として運転すると、後ろの車から「あおり運転」を受ける可能性があります。危険を感じたら道路脇に自分の車を停めて、後ろの車に道を譲るなどの対応をすると良いでしょう。

高齢者講習は運転能力を確認する場です。高齢者には交通ルールや自身の運転の癖などを再確認してもらい、安全に長く車に乗ってほしいです。